

定住人口増加策調査特別委員会会議録

令和3年 8月25日(水)

午後 2時00分 開会

○中川健一委員長

ただいまから、定住人口増加策調査特別委員会を開会します。

協議第1、調査事項についてを行います。

(1) 半田市の現状分析についてを行います。

お手元の資料1をご覧ください。

正副委員長で今年の委員会の事業計画案を作成しました。

この資料では、「定住人口の増加にはどのような施策が必要か」という視点でいくつかの施策に目星をつけており、その分野に関する半田市の現状を伺いたいとするものです。

当局には前もって質問事項という形で投げてありますので、半田市の現状についてご回答いただくようお願いします。

それでは、企画部長からお願いいたします。

○山田宰企画部長

【資料に基づき説明】

○中川健一委員長

少し私から伺います。

企画部長の説明の中で、令和2年度の人口目標は達成しているとの説明がありましたが、半田市が公開している資料のうちどこに記載がありますか。

また、既に人口目標を達成しているとすれば、人口増加の施策の必要性についてどう考えていますか。

○山田宰企画部長

人口目標については、まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価表の中に記載があります。

人口増の施策の必要性については、目標を達成しているからといって人口増のための施策が必要ないというわけではないため、調査の必要があると認識しています。

○新美保博委員

今、目標の数値を達成しているからといっても、今後ずっと継続していく保証はないため半田市の人口はどのような状態がいいのかということは今一度検討する必要があります。

ひとまず、人口は減少よりも横ばいや上向きのほうがよいだろうという考えのもと調査していけばいいと思いますが、人口増だけが正解ではないかもしれません。半田市にとって、やはり人口増が必要なのか、若しくは持続的なまちになるためにはもう少し人口規模が小さいほうが市民は暮らしやすいのか、そういったことも考えたほうがいいと思います。

○中川健一委員長

半田市の現状は、直近15年を見るとほぼ横ばいとなっていますが、東海市、大府市、刈

谷市では数千人の増加となっています。このことが問題であると考えていますので、人口増加策に取り組むべきだと考えています。しかし、人口増だけが正解ではないかもしれないという意見もあったため、その点についても検討していきたいと思います。

○水野尚美委員

人口増加に最も寄与する施策は何であると考えていますか。

○山田宰企画部長

住む場所というのはとても大きなファクターであると考えていますので、住環境の整備が重要であると考えています。

しかし、新興住宅地を作り続けることはできないため、空き家対策など、限られた土地の有効活用が必要であると考えています。

○中川健一委員長

続いて、市民経済部長に説明していただきます。よろしくお願いします。

○出口久浩市民経済部長

【資料に基づき説明】

○中川健一委員長

ありがとうございます。私から少し伺います。

企業誘致が半田市の定住人口増加にどの程度繋がったか、分かるような事例はありますか。また、企業誘致による定住化に係る費用対効果は分かれますか。

○出口久浩市民経済部長

例えば、現在潮干町にあるスバルの誘致によって、約6百人程度の雇用を産んでおり、そのうちの一定数は新たに半田市へ住んでいただいているのではないかと考えています。しかし、スバルの誘致はあくまで市内の雇用の創出を目的にしているため、定住人口増加に関する費用対効果は確認していません。

○石川英之委員

企業誘致だけでは人口増にどれだけ寄与しているか分かりません。それに伴って、人が住む場所をどれだけ作ったかというところを確認する必要があると思います。

また、企業誘致と併せて独身寮を建てる人が多いと思いますが、そこに住む人は結婚のタイミングで市外へ転出していってしまいます。そういったことも問題だと思います。

○芳金秀展委員

今後、人口を維持していったとしても高齢化率が高くなると税収としては厳しくなると思います。やはり生産年齢人口を増やす必要がありますがどう考えていますか。

○山田宰企画部長

おっしゃるとおりで、生産年齢人口が安定していることが重要だと思います。そういった意味で雇用の創出は必要となると思います。また、「まちは年をとる」という考え方があり、例えば清城町で空き家が増えていることなどがそれを示していると思いますが、年をとったまちを循環させていくことが求められると思います。

○鈴木健一議員

企業誘致によって、半田市に新たに住んだ人は確認できないのですか。企業誘致の費用対効果が把握できれば新たな必要性として検討材料にできるかと思います。

○出口久浩市民経済部長

企業誘致による転入者の把握は残念ながら難しいと思います。しかし、企業誘致では、新たな転入者ばかりでなく、市外への転出が抑制されるという面もあると思いますので、少なくとも効果があると考えています。

○小栗佳仁委員

人口増加のためには住む場所を創出する必要があると思います。例えば、働く場所は市外でも、半田市に住んでもらえればよいのではないかとも考えますがいかがですか。

また、住宅地の創出について、今後の考え方などありましたら教えてください。

○山田宰企画部長

「職住隣接」のほうが幸福度が高いという統計がありますので、可能な限り市民が市内で働くことができる環境を整えたいと考えています。しかし、市外で働いているからといってそれらの人を否定するものでは決してありません。

○中川健一委員長

1時間以上経過しましたので、しばらく休憩します。

午後 3時21分 休憩

午後 3時30分 再開

○中川健一委員長

委員会を再開します。続いて、健康子ども部から説明をお願いします。

○伊藤奈美子育て支援課長

【資料に基づき説明】

○中川健一委員長

ありがとうございます。1点伺います。

健康子ども部としては、子育て支援策は人口増加には寄与していないとの考えであるとのことでした。担当部局としてはそうかもしれませんが、私としては、女性が働きやすい職場や、子育て支援策は人口増に密接な関係があると考えています。市全体としてはどのように

考えていますか。

○伊藤奈美子育て支援課長

確かに、子どもがいる世帯の働く女性からは、もっと働きやすくなるよう支援してほしいという要望を伺います。そういった方たちが少しでも働きやすくなるよう講じている施策ももちろんありますが、その目的は定住人口増加というわけではなく「子育て支援、働く女性のための支援」が目的です。人口増と子育て支援について、関係性が無いとは思いませんが、施策を行う目的としては切り分けて考えています。

○水野尚美委員

子どもが小学校へ上がる段階で、例えば学童の金額が高いということで市外へ転出するといった話を聞きます。

私は、子育て支援は人口増と強い関係があると考えているため、あえて切り分けはせずに施策を考えるべきだと思いますがいかがですか。

○山田宰企画部長

健康子ども部として、目的はあくまで子育て支援という視点で施策を行うことは間違っていないと思います。例えば、女性が働きやすい職場や人口増といった課題に対しては、少し広い視点で捉え、健康子ども部だけでなく複数の部局に渡って取り組んでいくべきと考えています。

○芳金秀展委員

半田市は、女性が働きたい場所が少ないので、社会人になったタイミングで都市部へ出ていくといった話をよく聞きます。それが確認できるようなデータ等がありますか。

○山田宰企画部長

半田市の人口移動をみても、就職のタイミングで転出する女性が多いことが確認できます。また、女性の働きやすい職場づくりについては、考え方を変えなければいけないと思っています。今後は、女性が働きやすい業種を創るのではなく、どんな業種でも女性が働きやすい環境を整備していくことが必要だと考えています。

○中川健一委員長

それでは、続いて建設部から説明をお願いします。

○大山仁志建設部長

【資料に基づき説明】

○中川健一委員長

空き家対策について、定住人口にはどのように寄与すると考えていますか。また、半田市の空き家率13.2%にはアパートなども含まれているとのことですので、それらを除いた

いわゆる戸建て物件の空き家はどの程度あるのか把握していますか。

○大山仁志建設部長

空き家対策の効果としては、今は空き家となっている土地に戸建て住宅やマンションが建設され、市外から新たな住民が移り住んでくれれば直接人口増に繋がります。また、店舗などが建ったとしてもまちの賑わい創出につながるため、何の活用もされていない空き家の状態と比べれば何らかの効果が見込めると考えています。

アパートなどを除いた空き家率については、正確な調査を行っていないため確実ではありませんが、半田市内全戸数のうち1%程度にはなるかと考えています。

○中川健一委員長

駅前にマンションが建てば人口はかなり増えると思います。例えば刈谷市がそうですが、駅前にマンションがたくさん建って人口も伸びています。半田市の駅前にマンションが少ない理由はどのように考えていますか。

○大山仁志建設部長

刈谷市はまちなかに工場があり、駅から工場までの距離が近いので駅近くのマンションの需要が高いです。それに比べ、半田市は中心市街地に工場などはなく、郊外に建設されていますので自動車での通勤が主流です。その結果、半田市では車社会の傾向が強くなり、鉄道沿いのマンションの需要が刈谷市と比べると低い傾向にあるのではないかと考えています。

○中川健一委員長

ほかに質問等はありませんか。

【「なし」との声あり。】

○中川健一委員長

ないようですので、以上で半田市の現状分析については終了します。

続いて、(2)委員会の進め方についてを行います。

今後の進め方については、レジュメに記載のとおりですが、10月上旬ごろに県内視察を考えており、全国住みたい街ランキング1位の長久手市を視察したいと考えています。

また、年明け1月ごろには県外視察も実施して先進地を視察したいと考えています。

コロナのこともあるので、確実に視察が実施できるかは分かりませんが、調整は正副委員長に一任いただきたいと思います。

このような、スケジュールを考えていますが、ご異議ありませんか。

【「なし」との声あり。】

○中川健一委員長

ないようですので、それでは次に、その他について行います。

何かある方はいらっしゃいますか。

○中川健一委員長

【「なし」との声あり。】

ないようですので、以上で、定住人口増加策調査特別委員会を閉会します。
お疲れ様でした。

午後 4時31分 閉会